

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



東京大学・赤門(文京区)

西徳寺の予定

8月

10日(水) 燈虹塾セミナー
13日(土)～16日(火) 孟蘭盆会

9月

3日(土) 午後1時 帰命法会
～関東大震災100回忌を機縁として～(第一回)

7日(水) 燈虹塾セミナー
10日(土) 午後5時半 同行会「観衆偈」に聞く
法話:仲井 真裕

14日(水) 午後1時半 婦人会間法会
17日(土) 午後1時半 定例間法会
20日(火)～26日(月) 秋季彼岸会
22日(木) 午後1時半 秋季永代経法要

※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。
詳しくは寺務所までお問合せください。

顧問の一言

しゃば 娑婆

娑婆は仏教語で、サンスクリット語の音写で娑婆という字を当てています。

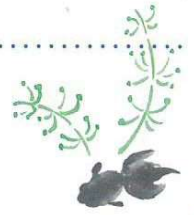
思うようにならない世界、つまり四苦八苦の私たちの人生のすがたであります。また堪え忍ぶ堪忍土とも訳されます。私たちが嫌うこの堪忍土を、生きる場所として開く智慧を、仏様の智慧というのです。



8月の山門の言葉

「ガベージタイムなんてありません」

NBA 渡邊雄太
(バスケットボール選手)



今月の「山門の言葉」は、日本人二人目のNBAバスケットボールプレイヤー渡邊雄太選手の言葉。「ガベージ」を訳すと、「ゴミ、不要な物」。つまり、勝敗が決した試合の残り時間を意味するそうだ。バスケットボールの競技人口は、全世界で約4億人と言われており、その頂点となるNBA選手に選ばれるのは、たった四五〇人だという。

それこそ、NBA選手としてコートに立つということは、これまで競い合ってきた選手達の思いも背負い、そして戦い続ける中、与えられる機会である。そこに「一分一秒も不要な時間はない」ということを、渡邊選手の言葉で表現されているように思う。

私に置き換え考えてみると、「人として頂戴したこのいのち、与えられたこの人生を、どのように生きるのか」という問いになるのではないだろうか。

私たちに与えられた人生、その時間は長いようで短い。しかし今までを思い返すと、不要な時間はないのである。また、どこまでも賜った「生」であり「時間」であるということを忘れてはいけな

いと感ずる。

今ここに「私」が存在することは当たり前ではなく、脈々と受け継がれる「いのち」の中に、願いを受けて与えられた、かけがえのない時間なのである。先立って歩まれた方々に尋ね、御恩報謝していく生活を、私たちの使命として仏様から願われているのだ。

(大橋 伊知郎記)

ランドマーク 東京大学赤門

文京区本郷にある東京大学赤門は、元旧加賀藩主の前田家上屋敷の御守殿門であったものです。

江戸時代に定められた律令制の位階、三位以上の大名に嫁いだ徳川将軍家の娘の敬称、また居住する奥御殿を「御守殿」と称し、表通りからその場所へ出入りするために作られた朱塗りの門のことをいいます。

東大・本郷キャンパスは、かつて加賀藩の江戸屋敷があり、文政10年(1827)加賀藩13代藩主・前田齊泰が、第11代将軍・徳川家斉の娘・溶姫を正室に迎えるにあたって、赤門が建立されました。

赤門は一度焼失してしまうと再建されないのが慣習で、前田家が江戸藩邸で抱えていた大名火消、加賀鳶がこの門を守り抜き、今では現存する唯一の赤門となっています。

※現在、赤門は耐震診断のため、閉門しております。



正門 (1912年完成)



東京大学大講堂 (安田講堂)

うばだいしゃ ~共悩共歩~ テーマ「時代」

優婆提舍(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舍願生偈)

【何事も基礎・基本】

今回は台東区立育英幼稚園園長の渡邊美和先生に伺います。

◆園児に向き合う時、大切にしていること

変化の激しいこの時代に、教育の現場は、未来に対応できる子を育てることを求められがちですが、子ども時代は「今を楽しむこと」が大切だと思います。この時期に五感で得た記憶や感性は一生のもので、むしろそれが未来を生き抜く力になると考えています。私はその共感者でありたいんです。

たとえば友達を楽しむような提案に乗っかって一緒に遊びを進めていくことが、お互いの信頼関係を育みます。

◆コロナの影響

生まれたときからコロナ禍の子どもは友達を作る機会が少なく、また祖父母ともなかなか会えない。その影響は親子共に大きいです。アドバイスをくれる存在、同じ年頃の子をもつ親同士の触れあいの機会が奪われているのは確か。私のような第三者との関係がとても大切だと感じます。

そういう悩んでいる親子にもっと出会いたい、幼稚園が地域のセンター的役割を果たしていきたいと常々思っています。出会いは縁なんですよ。縁を頂いた親子に向き合っていくというのが基礎・基本だということにいつも立ち帰ります。これは私の場合は剣道を通して教えられました。

昔は色々な流派があり、それぞれの道場の教えを学び伝えることが大切でした。今は勝負自体に関心が向かいがちですが、時代の流れの中で学びの本質を見極めることが大切だと感じます。それが基礎・基本。ところがその基礎・基本を身に付けることは容易ではなく、古(いにしえ)に学び、教えを守って行かないとたどり着けないんですよ。これは昨年他界された師匠から学んだことなん

です。師匠は「芸事にこそいのちを懸けなさい」と常々言われてました。

そう考えると私にとって剣道とは趣味や特技ではないんです。それこそ朝起きて、立ち振る舞いから全てが剣道。生き方そのものです。

遅々としてですが、日々、基礎・基本に思いを巡らせていると閃くことが稀にあります。でもこの閃きは毎日の積み重ねの裏付けなんです。

私の師は弟子を褒めて伸ばす方でした。出来ないことを指摘するのは誰にでもできるが、出来ていることを褒めてやるのが師。そして出来ることを増やしてやると「整う」と言われていました。

ですから私にとって剣道は生活の、人生の中心、軸、背骨なんです。剣道から人生を学ばせてもらっています。私の教育観にも生きています。

.....
情報や知識も大切ですが、それだけでは肉の塊、背骨(基礎・基本)があつてこそそれが生かされる。何事も「基礎・基本」を求め続けることが肝要だと教えられました。

うちの子も以前、お世話になりましたが、先生が率先して楽しむ姿がとても印象的でした。

(聞き手 山崎哲)



うんじゅうがくしゃ
「雲集学舎」開学式

6月20日(月)、西徳寺・梅檀の間にて雲集学舎開学式が開かれました。

雲集学舎は、西徳寺でもご講義をいただいていた宗正元先生と共^{そしやうげん}に学ぶ場所として開かれ、西徳寺職員も共に学ばせていただいておりますが、一昨年、宗正元先生のご逝去により閉学となっていました。

そしてこの度、雲集学舎の再出発の場所として、西徳寺を会^{えしよ}所(会場)にしたいとご依頼があり、6月からお使いいただくこととなりましたので、皆様にご報告申し上げます。



城東ブロック会報告

6月26日(日)、城東ブロック会総会・聞法会を開催いたしました。

感染者がいくらか減少傾向ではありましたが、前回同様オンラインも併用して開催し、総会では、様々な議案と共に、新幹事として津川清様をお迎えすることをご承認いただきました。

その後の聞法会では、毎日同じように過ごす日々を切り口として、大谷最高顧問からお話を頂戴し、「経典が説く「死」は、後を生かす願いが込められている。いただきたいのちを生かすんだ。その教えを聞くことが、私たちに勧められている」とお話しいただきました。

「看板を見て気になって来た」と、当日飛び入りで参加された方もおられ、思い思いに語っていただき、久しぶりに対面で皆様にお会いできた喜びを分かち合いました。

次回は10月9日(日)に聞法会を予定しております。

(高橋 淳 記)



帰命法会 ～関東大震災百回忌を機縁として～ 挙行に当たって 投稿 中野区 今井正之

芸能界でも、大震災によって各劇場を焼失し、劇界の損害甚大となるが、本郷座・浅草松竹座・邦楽座等により、歌舞伎の復興に先頭になってつとめ、西徳寺に非常に縁が深く、本堂の前にある左右の巨大な天水桶を寄贈したことで知られる初代中村吉右衛門丈の藝に対する神髓を考えてみたい。

実父三代目歌六、実弟第十七代勘三郎丈、甥の第十八代勘三郎丈も西徳寺境内の墓所で静かに眠る。

ここに二つの逸聞を紹介したい。

上方の歌舞伎俳優中村珊瑚郎氏、この人は現在劇界の大先輩であるが、中村吉右衛門丈を日本一の名優と推賞して居る。この播磨屋が座右の銘としている一語がある。それは東京の侠客の大親分、武部伸策氏が與えた次の訓戒である。則ち「俳優は凡てのお客様を、観音様と思いなさい。」—この訓戒を身に體し、中村吉右衛門丈は常に「自分の舞台を見て下さる方は皆、是れ観音様である。自分は観音様の御前にて自分の藝を供養しているのだ」という観念で演藝をしている。この考へに住して藝に精進し従って一挙手一投足、半言隻句もおろそかにしない。それがあの緊張し切った舞台になるのである。

『観音の靈驗』中村吉右衛門丈の観音信仰 中根環堂 著(昭和15年2月)

私は波野君の藝の素である其の人格に深く敬服して居りました。明治以来数多くの名優が出ましたが波野君ほど、身も魂をも総てを挙げて芝居に打ち込んだ役者は恐らくありませんまい。

波野千代子様 昭和二十九年九月六日

徳富蘇峰による弔辞(一部抜粋)

テレビ以前と以降では芸能にたずさわる人の歴史は全く違う。テレビ以前の日本では現代とは大きく乖離しており、悪条件の中、血の滲むような修業を重ね、その結果の藝を伝えてきた。ここでは昔の芸人気質の話だが、敬愛の念をこめて「心意気」の生き方を学びたい。



ご寄稿ありがとうございました。

初代吉右衛門丈の「奉納」への姿勢に驚かされました。
厳粛に帰命法会に臨みたいと思います。

住職 山崎 哲

【画像】 演目「近江源氏先陣館」昭和天皇后両陛下 天覧歌舞伎ご鑑賞
昭和28年11月10日 於：歌舞伎座 佐々木盛綱 画



坊さんのツブヤイッター



@テッシン

新潟市生まれの私。「みかづきやのイタリアン」がソウルフード。焼きそばにトマトソースという驚きの組み合わせ。先日法事で新潟に行った際、数十年ぶりに食べた。懐かしい味に興奮。当時の思い出と共に食べればB級もA級か・・・。

#イタリア? #故郷 #ご当地 #人それぞれ



イタリアン

えこお志お礼

埼玉県 井上 實様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

内愚外賢

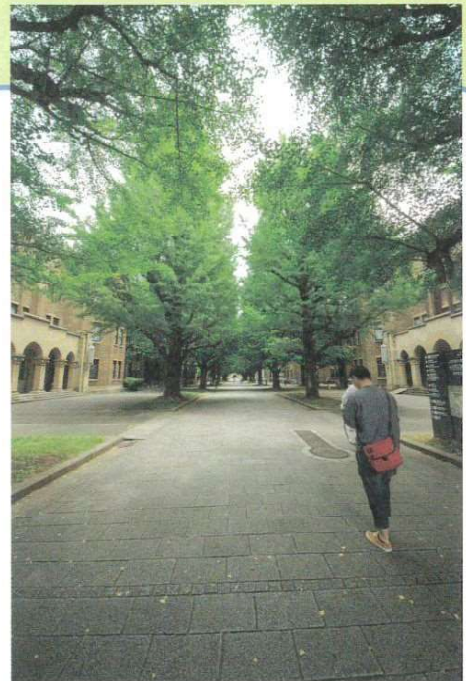
～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

先月7月のお盆は、新盆のお宅を含め、多くのお家へ伺ってお参りさせていただき、先立たれた方をご縁として、仏様に手を合わせる機会をいただきました。

東京でのご法事は、お寺の本堂で勤めることが多いですが、私が生まれ育った田舎の寺では、ご自宅に伺って勤めることがほとんどです。ご自宅に伺わせていただくと、お寺の時よりも、集まった皆さま方とゆっくりお話をすることができます。お互いにお寺では聞けないこと、言えないこと、いろんな話ができるので、私はこの時間が好きです。

法事や、節目の仏事は、場所を問いません。ご遠慮なくお問合せください。

また、急な訃報など、お困りの際は、すぐにお寺までお電話ください。
(編集長 仲井 真裕 記)



東大・銀杏並木通り

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

 saitokuji@ce.wakwak.com
 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook

「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。